

建設工事において、解体と新築工事を一体的に施工する場合は、解体分と新築分の数量を区分し、「様式2」を作成して下さい。

1. 工事概要 表面(様式1)に必ずご記入ください

現場内利用の欄は、発生量(掘削等)のうち、現場内で利用したものについて御記入ください。

コード※14(コード※13で「7. 内陸処分場」を選択した場合のみ記入)

2. 建設副産物搬出計画(実績)

注) 再資源化施設、最終処分場は、指定副産物の種類ごとに3ヶ所まで記入できます。 4ヶ所以上にわたる場合は、用紙を換えて記入してください。

1. 山砂利等採取跡地 2. 処分場の覆土 3. 池沼等の水面埋立 4. 谷地埋立 5. 農地受入 6. その他

指定副産物の種類	①発生量 (掘削時) =②+③+④	現場内利用・減量			現場外搬出について														
		現場内利用		減量化	搬出先名称 3ヶ所まで記入できます。4ヶ所以上わたる時は、用紙を換えてください	区分のどちらかに○を付けてください	施工条件の内容コード※12	搬出先場所	住所コード※4	運搬距離 千 百 十 一	搬出先の種類 コード※13	受入地の用途 コード※14	④現場内搬出量				⑤再生資源利用促進量 (注2)		
		用途コード※10	②利用量	うち現場内改良部									減量法コード※11	③減量化量	百 十 万	千 百 十 一		うち現場内改良分	
特定建設資材廃棄物	コンクリート塊	トン	トン	トン						km					トン	トン			
	建設発生木材(木材が廃棄物になったもの)	トン	トン	トン						km					トン	トン	トン	%	
	アスファルト・コンクリート塊	トン	トン	トン						km					トン	トン		%	
	建設廃棄物	建設発生木材(伐木材、除根材など)	トン	トン	トン						km					トン	トン	トン	%
		建設汚泥	トン	トン	トン						km					トン	トン	トン	%
		建設混合廃棄物	トン	トン	トン						km					トン	トン	トン	%
		金属くず	トン								km					トン	トン	トン	%
		廃プラスチック	トン								km					トン	トン	トン	%
		鉄くず	トン								km					トン	トン	トン	%
アスベスト(飛散性)		トン								km					トン	トン	トン	%	
その他の分散された廃棄物		トン								km					トン	トン	トン	%	
建設発生土		第一種建設発生土	地山m3	地山m3	地山m3						km					地山m3	地山m3	地山m3	%
	第二種建設発生土	地山m3	地山m3	地山m3						km					地山m3	地山m3	地山m3	%	
	第三種建設発生土	地山m3	地山m3	地山m3						km					地山m3	地山m3	地山m3	%	
	第四種建設発生土	地山m3	地山m3	地山m3						km					地山m3	地山m3	地山m3	%	
	泥土(河川、湖沼等の浚渫土)	地山m3	地山m3	地山m3						km					地山m3	地山m3	地山m3	%	
	合計	地山m3	地山m3	地山m3						km					地山m3	地山m3	地山m3	%	

コード※10
1.路盤材 2.裏込材
3.埋戻し材
4.その他(具体的に記入)

コード※11
1.路盤材 2.脱水
3.天日乾燥
4.その他(具体的に記入)

コード※12
施工条件について
1.A指定処分(発注時に指定されたもの)
2.B指定処分(もしくは準指定処分)(発注時には指定されていないが、発注後に設計変更し指定処分とされたもの)
3.自由処分

コード※13(詳細は「表-4」参照のこと)
再生資源利用促進(再生利用された場合)
1.他の工事現場(内陸:公共、民間を含む)
2.再資源化施設(土質改良プラントを含む)
3.有償売却(工事請負会社が建設副産物を売却し、代金を得た場合)
4.建設発生土ストックヤード(再利用工事が決まっている場合)
5.海面埋立事業(海岸、海浜事業含む)
最終処分場・その他(処分された場合)
6.最終処分場(海面処分場)
7.最終処分場(内陸処分場)
8.建設発生土ストックヤード(再利用工事未定)
9.焼却施設・最終処分場へ持ち込むための中間処理
10.その他(具体的に記入)

注2. 再生資源利用促進量について
現場外搬出量④のうち、搬出先の種類(コード※13)が1~5の場合